

月寒九条の会

会報

2014年10月
No 7

月寒九条の会では第7回例会として、9月6日、「戦争体験と平和を語る集い」を開催しました。

いづれも地元にお住まいの結城信重さん、狩野 廣さん、高畑 滋さんから、みずからの体験にもとづくお話をうかがい、その後意見交換を行いました。

無差別爆撃の東京大空襲

10万人の死亡も「被害は軽微」と

1945年3月10日の東京大空襲では10万人以上の死者が出ました。当時国鉄の田端駅に勤務していた結城



さんは、焼け出された人々を避難誘導した様子や、空襲のあと自宅に徒歩で帰る間に目にした惨状を生々しく語りました。空襲の後、田端駅には空になった焼夷弾の筒が800本も積み上げられて、空襲のすさまじさがこれでわかったと語りました。

10万人以上の死者がでたものの、大本営の発表は、「空襲による火災は皇居の主馬寮（馬小屋）で鎮火し、被害は軽微」と全く住民を無視したものであったと語りました。東京大空襲は一般の民家をも



ねらった無差別爆撃でした。米軍は

連絡先：野口 (852-9360)
加藤 (852-2346)
e-mail:tsukisamu9@yahoo.co.jp
http://www.geocities.jp/tsukisamu9/

「日本では家内工業で軍事物資が製造されてきたから民家も爆撃した」と言いますが、町場のあった地域は爆撃して

学校教育で天皇の神格化



終戦 当時、旧岩見 沢中学 在学中で、海

軍予科練志願中に終戦を迎えた狩野さんは、当時の学校の様子、軍事訓練、勤労奉仕、徴兵検査などについて語り

ました。当時、天皇は神とされていたが、それは明治以降のことです。学校教育の中で天皇の神格化が行われたと指摘。学校には奉安殿があり、それに最敬礼をしないとビンタをくらったこと、四大節（元旦、紀元節、天皇誕生日、明治天皇

軍で、1938年から中国の重慶に対し、無差別爆撃を繰り返していたことを指摘しました。結城さんは、発足した第二次安倍内閣の閣僚の2/3が、改憲・右翼団体を支援する議員会議のメンバーになっていることに触れ、「こういう時だからこそ戦争のひどさを伝えていく必要がある。そういう思いで今日、話をさせてください」と締めくくりました

疎開で、お経を覚える

戦争は戦闘員だけのことではない



東京 神田で生まれ育った高畑さんは、

学童疎開の体験を以下のように語りました。

インドはもっぱら軍事教練の場で、北朝鮮の軍事パレードのような分列行進の練習をやらされ、「訓練、訓練だった」と語りました。

狩野さんの父は月形小学校長で、教育者の模範として「娘は大陸の花嫁に、息子は兵隊に」を実践。戦後、父に「教育者としてどれだけの子どもを戦死させたか」とたたきだしたところ、大変怒ったと語りました。戦争が終わったあとの食糧難、電力不足についても語り、息子の戦死を信じられず毎日駅に通い続けた老母の話や新聞に書いたところ、これを読んだアメリカの方が、四方国語に訳して出版してくれたと、そのコピーを配布し、ぜひ読んで欲しいと語りました。

高畑さんは、開戦の年に小学校に入学、空襲が激しくなった1944年8月、埼玉県の太田宮近くのお寺に疎開しました。周辺は純農村でしたが、当時の農村は働き手が戦争に取られ人手不足でした。当時の学寮長（先生）は何よりも

食糧の確保が大切と、子供達を農作業の手伝いに派遣したり、休耕田畑を借りて自分たちで米を作ったりしました。

お寺に疎開し、朝晩お経をあげているうちに全員でお経をあげられるようになりまし。村では戦死者が相次ぎ、弔いに子供達も動員され「お寺の小坊主さん」と評判になりました。食糧難は戦後も続き終戦になっても東京では食べるものがないと、翌年の3月まで疎開生活を続けました。1947年新憲法が發布され、新制中学1年生として、文部省発行の「あたらしい憲

意見交換では、参加者からも戦時中や戦後の体験が語られました。ともすると、日々のくらしに追われ、余裕もなくなってしまうのだが、戦争体験を学び、語りついで行くことが大切とされました。報告者からは、憲法九条の「戦争放棄」はすでに、不戦条約にあり、国連憲章にも明記されている。これがまともな考え方である。しかし紙に書いてあるだけでは不十分で、私たちが戦争はしないと声をあげて行くことが大切。中国

声をあげていくこと大切

法のはなし」という教科書で、民主主義、主権在民、戦争放棄、基本的人権などを学びました。当時の先生たちは悲惨な戦争を体験して生き残った方たちが多く、共に今後の日本を創っていくという信念を強く持っていました。高畑さんは、「戦争は兵隊（戦闘員）だけのものではない、母親や子どもたちなど多くの人々に、大きな被害を与えるもの」ということを強調するとともに、日本を再び戦争する国にしようとする一連の流れについて警鐘を鳴らしました。

から南方のガダルカナルまでを占領するという無謀な戦争を許した世の中に二度としてはいけないが、今の安倍政権を見ると「やばい」という感じがする。「反戦平和の声をあげていくことが大切」とされました。最後に、ものが言えなくなる、中央政府の言うことに従わなければならなくなると、全体主義に陥ってしまう。日頃から一人一人が注意を払い、そういう勢力に対峙していくことが大切と、論議を締めくくりました。

参加者の感想

戦争は本当に大変だったんだな、ということがわかりました。戦争が終わっても食糧が足りなかったりして、苦勞したことがわかりました。戦争は多くの方が亡くなってひどいなと思っていました。これから戦争は絶対しない方がよいと思います。いろいろな体験が聞けてよかったです。戦争中の体験者が次第に少なくなっていると感じました。だからこそ体験を若い人に伝えていかなければならないと思い、こういう機会を増やしていく必要性を感じました。貴重な体験を聞かせてくださってありがとうございました。次回は高畑さんの読みがたりを希望いたします。

戦争体験を語っていただいた3氏のビデオを作成しました。月寒九条の会のホームページで見ることができます。CDでの配布もできます。

集団的自衛権閣議決定撤回を求める

九条の会全道集会

十一月二十日(木)午後六時半から

札幌市民ホールにて開催

安倍内閣は、多くの国民の反対を押し切って、集団的自衛権の行使を容認する閣議決定を行いました。政府が勝手に憲法の解釈を変えることなどゆるされるものではありません。これを見逃しては、日本を再び戦争に向かわせることになる、北海道内の九条の会が集まり、標記の集会を開くことになりました。

実行委員会には、九月末の時点で、173余りの九条の会が名をつらねています。月寒九条の会も、実行委員会に

加入し、打ち合わせの会議に参加しています。多くの皆様方が参加されるようお願いいたします。なお、参加費は500円となっています。前売り券もあります。集会は、「乱拍子」による勇壮な太鼓演奏、神保弁護士による講演、さらに各「九条の会」からの報告な

署名もお願いします

九条の会では、安倍首相、衆参議長あての署名にも取り組んでいます。ご協力ください。署名用紙は野口のところにあります。

区内九条の会

交流会開く

過日、区内「九条の会」交流会がもたれました。街頭での宣伝署名行動や、戦争体験を聞く会などに取り組んでいることが報告されました。

年内は無理であるが、来年には区内の九条の会でなにかまとまった行事をやつてはどうかということになりました。

<月寒九条の会例会>

札幌での戦争を語る

札幌の旧軍事施設跡、

朝鮮人の強制労働

講師:小松 豊(札幌郷土を掘る会会長)

11月29日(土)午後1時30分~4時

東月寒地区センター 集会室(2階)

講演のあと、講師への質問・感想、参加のみなさんからの戦争体験、平和への願いやメッセージなど懇談を予定しています。